

「かさねる」

■エピソード

子どもたちが独立してからは、久子さん夫妻は二人で食事に出かけることが多くなりました。その日も、ゆったりとおそい夕食を楽しんでいました。

しばらくすると、まだ小さな子どもたちを連れた若い親たちが入ってきました。最初はおとなしく食べていた子どもたちも、だんだんと歩きまわったり、食器で遊んだり、いすに寝ころんだりしはじめました。でも、親たちには注意するようすはありません...

その姿を見ていた久さんは、食事を楽しもうという気持ちも消えてしまったのです。

次の日曜日、孫を連れてやってきた昌也さんと冬美さんに、久さんはさっそくこのことを話しました。

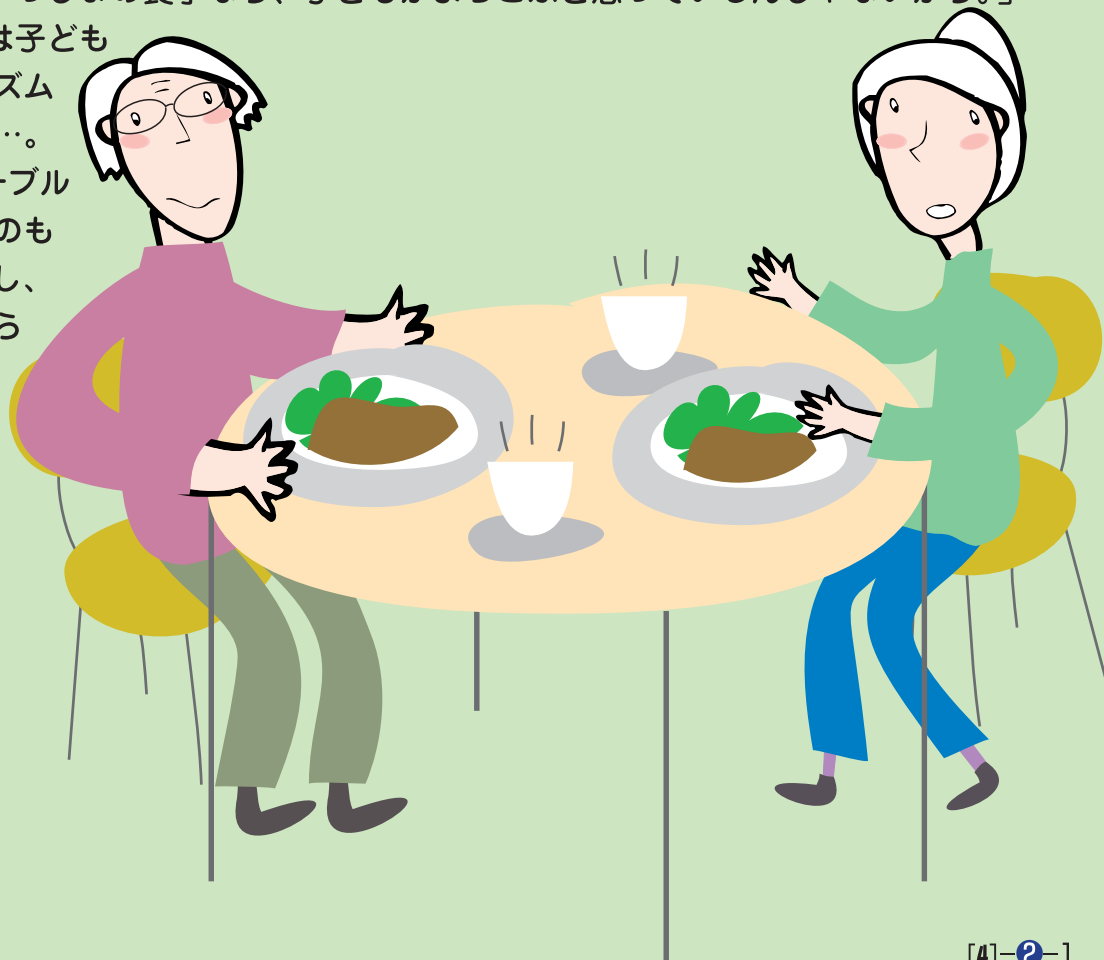
昌也：「おそい時間に子どもを付き合わせるのをおかしいと思うけど、何かの事情があったのかもしれないよ。生活のスタイルだって昔とはかわっているんだし。」

久子：「でも、子どもも疲れていてかわいそうだったわ。」

冬美：「みんなでいっしょの食事なら、子どもがよろこぶと思っているんじゃないから。」

久子：「子どもには子ども

の生活のリズムがあるのよ…。それに、テーブルには熱いものもあつたんだし、やけどしたらどうするつもりなんでしょう。」





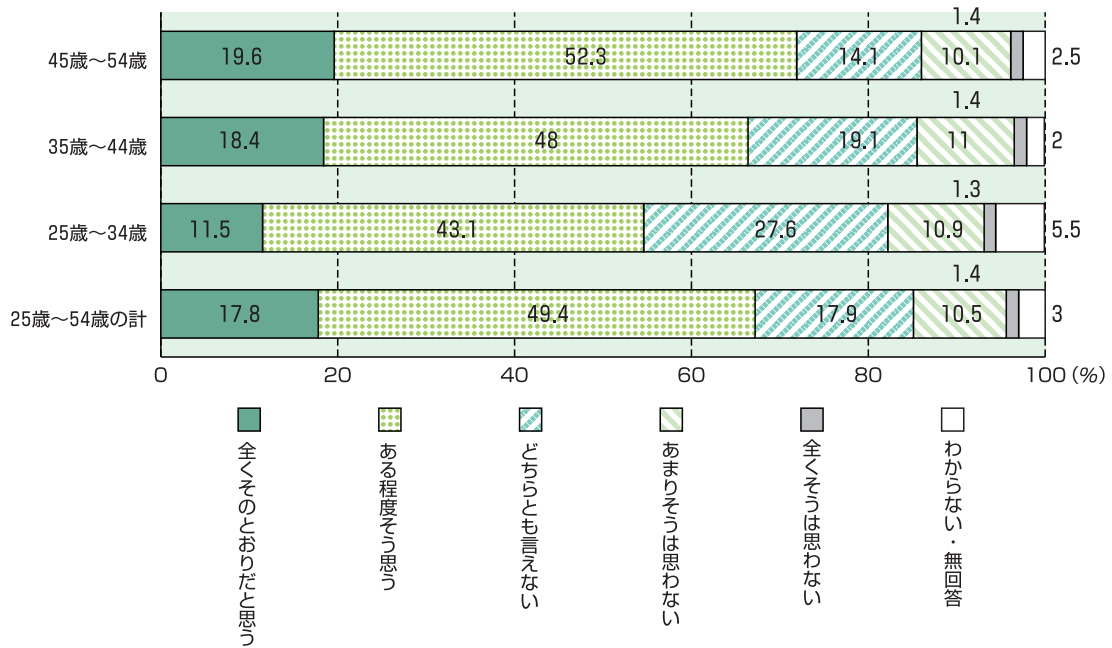
話しあいのポイント

●久子さんと昌也さん、冬美さんのやりとりについてどう思いますか？

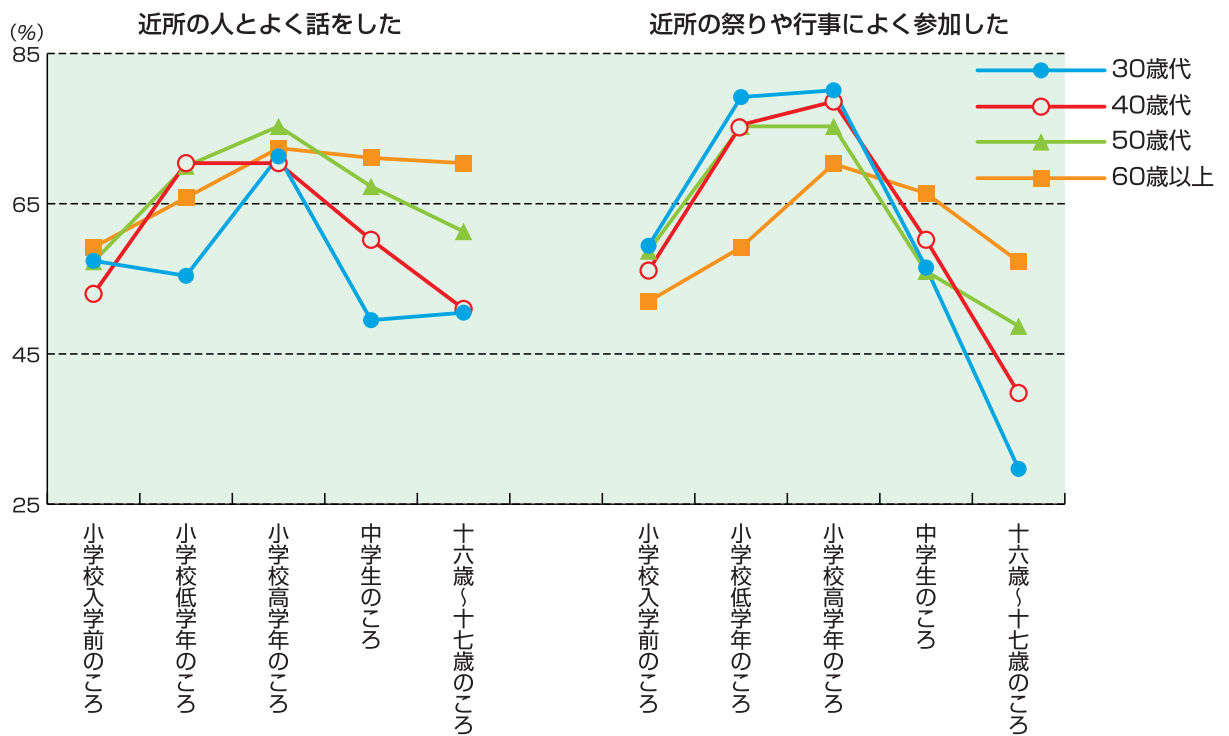
●あなたが子育てをしていたころ（子どもだったころ）と比べて、子育てや親について変わったと感じること、変わっていないと感じることはなんでしょうか？

●変わらないと感じるものを、若い世代にどう伝えればよいでしょうか？

最近の家庭教育力の低下についてどのように思うか

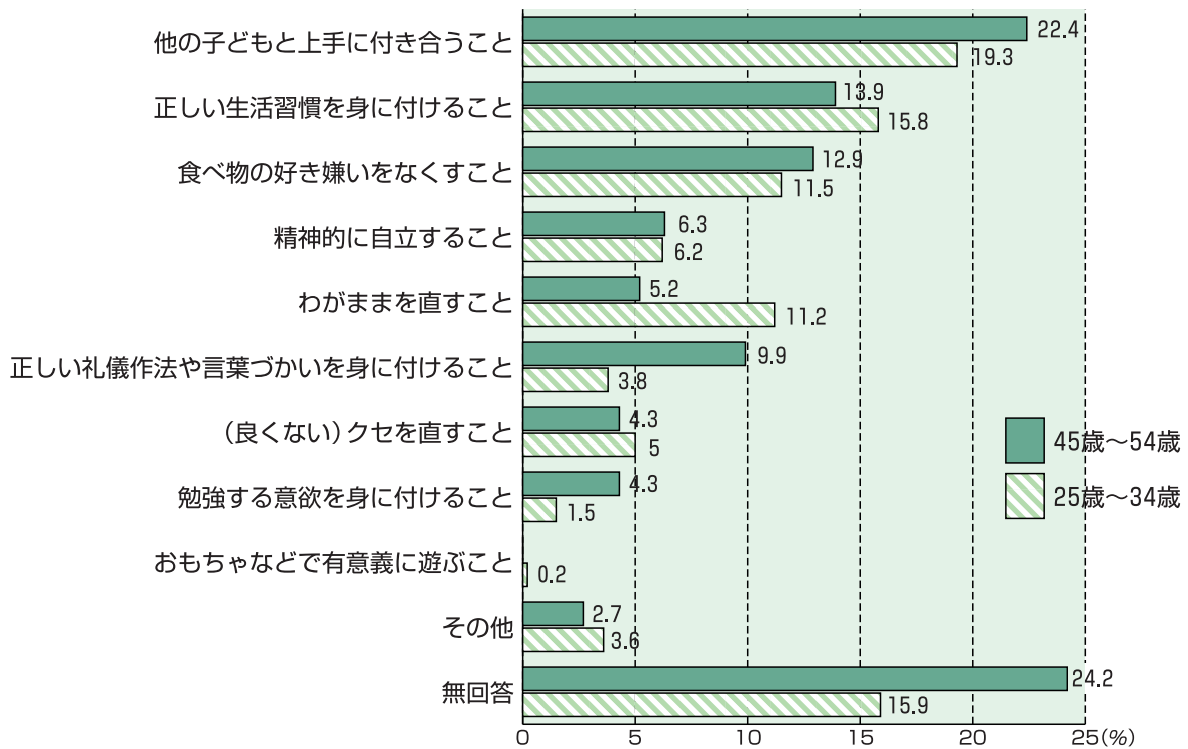


※出典：国立教育政策研究所内 家庭教育研究会
「家庭の教育力再生に関する調査研究」（平成14年）



※出典：大阪府教育委員会「育ちと学びの世代別調査」（平成13年）

■ しつけする上で最も悩んだこと



※出典：国立教育政策研究所内 家庭教育研究会
「家庭の教育力再生に関する調査研究」(平成14年)

